

若者に起業家精神を

北大や樽商大初の連続共同講義

北大と小樽商科大、札幌市は17日から、学生を対象にアントレプレナーシップ(起業家精神)やスタート



オンラインを通じて学生に変革への挑戦を訴えた小樽商大の穴沢学長(左)

アップ(新興企業)を学ぶ、初の連続共同講義を始めた。若者が社会にある課題を発見・解決する能力を養うことを通じ、将来の進路の一つとして起業を視野に入れてもらうのが狙い。

参加した学生は、ほかに札幌大、室蘭工大、道情報大(江別)など。講義は主にオンラインで、1回あたり3時間(9分2コマ)、隔週で合計8回行う。7月下旬まで行い、北大と小樽商科大では単位認定する。

17日夜の第1回講義には、入学したての1年生を中心に約100人が参加。小樽商科大の穴沢真学長がオンラインを通じて「変化の激しい時代の中で、変革に挑戦する力を身につけて

ほしい」とエールを送った。5月ごろからは学生が4、5人のチームをつくり、社会課題を設定し、解決のための新たなビジネスの計画を作り上げる。

ふるさと納税の返礼品にデジタルアートを提供する

ビジネスを展開する「あるやうむ」(札幌)の梶中博昂代表ら若手起業家が指南する。最終回は、北大の宝金清博学長や札幌市の秋元克広市長の前でビジネスプランを発表する。

(土田修三)